

保護者の皆さまへ

中部中学校運営協議会長 鎌倉 邦男
一宮市立中部中学校長 伊藤 基生

令和5年度 学校評価アンケートの結果について

早春の候、皆様方におかれましては、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。また、本校の教育活動にご理解とご協力をいただきましてありがとうございます。

さて、2学期末に実施させていただきました学校評価アンケートについて、下記のように結果を報告させていただきます。

記

1 生徒・保護者アンケートについて

(1) 生徒アンケートについて

- ・生徒アンケートの経年変化を見ると「学校のルールやマナーを守って生活していますか」の質問に対して、「はい」と答えた生徒の割合が増えてきている。
- ・校内におけるあいさつへの意識は、高い水準を維持しているが、家庭や地域でのあいさつについても、引き続き意識を高める指導を地域と連携しながら行っていく。
- ・学年の違いによって偏りがあるが、「学校や学級が楽しいか」の質問に対して、「はい」と答えた生徒の割合が昨年度より増加している。学校・学級が子どもたちにとって居心地の良い場所となりつつあると考える。しかし、不登校や行き渋りを訴える生徒は昨年度より増加している。
- ・学校での居場所づくり、家庭での学習習慣、課題は様々で難しいが、今後も自己肯定感を高めるための指導を充実させるとともに、継続的に調査を行い、その推移を分析していく。
- ・家庭学習に1時間以上2時間以内かけている生徒の割合が昨年より13%と大幅に減少している。また、30分未満の生徒の割合は7%も増加した。家庭での学習習慣の定着は大切であり、適切な課題の量の見直しや効果的な学習を行わせ、成就感を味わわせるようにしていく必要がある。

(2) 保護者アンケートについて

- ・保護者アンケートでは、教職員は「親身になって相談にのってくれる」「子どもの気持ちや実態をよく理解している」「いじめのない学校づくりに取り組んでいる」などの質問について、「はい」「そう思う」の回答率が減少した。
教職員の取り組みはこれまで同様、生活アンケート後の相談や生徒の気持ちに寄り添った対応をしているが、保護者にはその取り組みの様子が伝わっていないように感じる。引き続き、情報発信の充実を図っていく。
- ・SNS等によるトラブルを心配する声が依然上がっている。今後も道徳教育、教育相談などの取り組みを充実させていく。特に情報モラル教育に力をいれて、生徒たちが望ましい人間関係づくりを行えるようにしていく。
- ・不登校生徒については、昨年より増加している。生徒、保護者の気持ちに寄り添い、適切な対応を心がけていく。

2 学校関係者評価について（第5回学校運営協議会でのご意見より）

- ・生徒アンケートの「自分自身に自慢できる場所がありますか」の質問に対して、「はい・思う」、「どちらかといえば、はい・思う」の合計が71%ある。これは、昨年度と同じ数値ではあるが、「はい・思う」の割合が6%増えている。世界の統計調査の中で、日本が諸外国に比べ、自己肯定感が低いことが話題になっていることを考えると、71%を高いととらえてもよいと思うが、その一方、「自信がない・あまりない」と考えている生徒は毎年全体の29%と3割を占めており、自己肯定感をもたせる授業展開や行事などの体験活動が重要であると考えます。
- ・家庭や地域でのあいさつは毎年多くの生徒が行っている。登下校の様子からもうかがうことができる。ただ、あいさつをあまりしない生徒が増えているのも現状である。学校と家庭、地域とが連携してさ

わやかなあいさつが自然と飛び交うよう、まずは教師から積極的に声をかけたり、発信したりしていきたい。

- ・新型コロナウイルス感染症が5類に移行し、学校を取り巻く環境も変化してきた。得たものがある一方で失われたものも多い。今後も生徒たちへの心のケアをさらに充実させていってほしい。また、中部中学校区で、授業のルールやマナーの統一、現職教育（リーディングスキル）など、より一層小中連携を進めていきたい。

保護者の皆さまには、アンケートへのご協力ありがとうございました。この結果を今後の教育活動にいかして参りたいと思います。今後とも、ご意見・ご要望をお寄せいただくとともに、学校教育に対してご理解とご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。